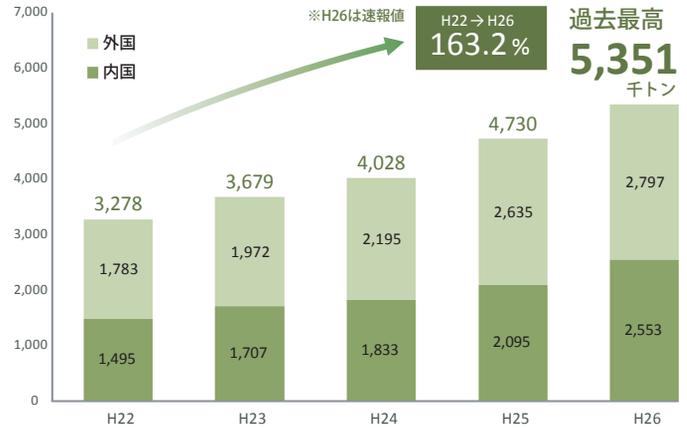


H26 取扱貨物量 過去最高535万トン

平成26年の取扱貨物量は、過去最高の535万535トン（対前年比113.1%）となりました。

外貿（輸出入）は279万7,455トン（対前年比106.2%）となり、LNGや米、再利用資材などが増加、内貿（移出入）は255万3,080トン（対前年比121.9%）となり、砂利・砂やLNG、LPG、セメントなどが増加しました。

近年では、中央地区において石狩オイルターミナルのタンク8基がさらに増設されたほか、3基目のLNG貯蔵タンクの増設も進められています。また、西地区におけるLNG火力発電1号機建設に向けた工事の着手など、今後もエネルギー関連の貨物をはじめ、家具装備品や再利用資材などの堅調な推移が見込まれています。

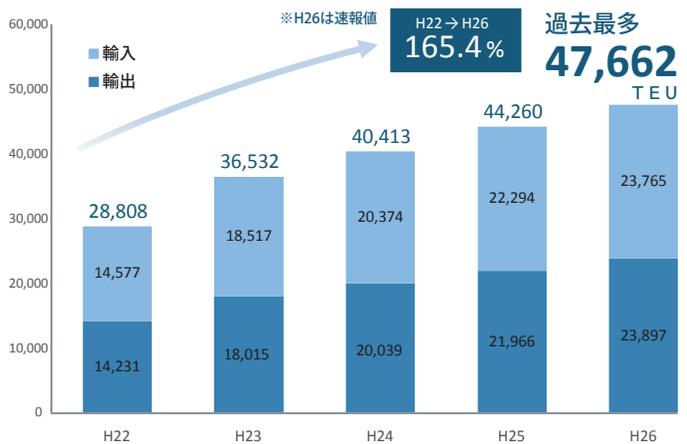


外貿コンテナ取扱個数 4年連続過去最高

平成26年の外貿コンテナ取扱個数は、4万7,662TEU（対前年比107.7%）となり、過去最高を4年連続で更新しました。

輸出は2万3,897TEU（対前年比108.8%）となり、再利用資材や衣類、木製品などが増加、輸入は2万3,765TEU（対前年比106.6%）となり、家具装備品や木製品、畜産品などが増加しました。

取扱個数は、平成22年からの5年間で1.6倍以上と著しく増加し、この要因としては、北海道経済の中心である札幌市中心部まで約15kmの距離と充実した道路網による優れたアクセス性、また、石狩湾新港地域における冷凍冷蔵倉庫や物流倉庫などの企業集積によるものと考えられます。

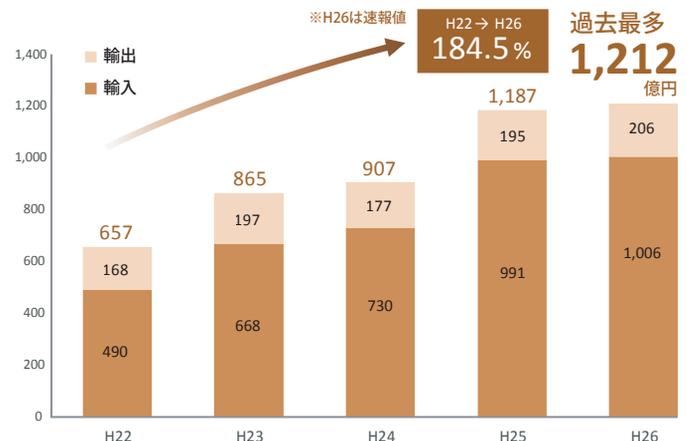


貿易額 過去最高の1千2百億円超

函館税関小樽税関支署石狩出張所がまとめた平成26年石狩湾新港外国貿易概況（速報値）によると、輸出入総額は、過去最高の1,211億7,069万円（対前年比102.1%）となりました。

輸出額は、205億7,768万円（対前年比105.3%）となり、中国やベトナムなどに向けた魚介類及び同調整品、中国や韓国などに向けたパルプ及び古紙などが増加しました。

輸入額は、平成6年の開港以来、はじめて1千億円を突破し、過去最高の1,005億9,300万円（対前年比101.5%）となり、タイやニュージーランドなどからの肉類及び同調整品、ロシアやマレーシアなどからの天然ガス及び製造ガスが大きく増加しました。



石狩湾新港開港20周年

記念式典

石狩湾新港は、昨年、国際貿易港として平成6年に開港してから、20周年を迎えました。これを祝い、開港日である6月10日に、140名を超える方々のご出席のもと、記念式典を開催しました。

本港が20周年という節目の年を迎えることができたことは、港湾利用者をはじめとする皆様のご理解、ご協力によるものと深く感謝申し上げます。

今後も北海道の経済と暮らしを支える日本海側の物流拠点として、更なる発展に向け、引き続き努力してまいりますので、皆さまのお力添えを今後ともよろしくお願いいたします。



開港20周年記念式典のくす玉開披

開港20周年記念イベント

開港20周年を記念し、次世代を担う子供たちに港の役割を広く知っていただく機会として、昨年の8月23、24日に記念イベントを開催しました。

会場となる西埠頭には、世界最大級の帆船「海王丸」(2,556トン)が初入港し、「海の貴婦人」と呼ばれる優雅な姿を見ようと大勢の人々が集まり、船内の一般公開では5,000人を超える方々にご参加をいただきました。

会場内では、マリンウォッチングやヘリフライトによる海や空からの港の見学やクイズ大会、音楽ライブなどのステージイベントも行われ、2日間で約31,000人もの方々にご来場いただきました。



帆船「海王丸」のセイルドリル

インタビュー

CGCジャパン株式会社

石狩湾新港の2013年度輸入量は400TEU超 北海道での販売力向上で伸ばす



CGCジャパン株式会社
貿易事業部
小山 智彦 氏

貴社の概要についてお聞かせください

CGCグループは、全国の北海道から九州までそれぞれの地域でお客様に高い支持を得ているスーパーマーケットで構成される協業組織で、その全国本部がCGCジャパンです。それぞれの地域に密着した店舗展開する加盟企業に、商品開発を中心に、物流や情報システム、教育、販売促進などの支援活動を行い、1社ではできないことをCGCグループの協業活動を通じ実現しています。その活動の柱である商品開発では海外でも行っております。

どのような特徴がありますか？

弊社が輸入するコンテナの30%以上は、東京、大阪などのメインポートではなく、石狩湾新港をはじめとした地方港で輸入通関をしております。これは、日本全国の加盟店への物流費用をできるだけ低減し、お客様へお手頃な価格でご提供するためです。

本港のご利用状況についてお伺いします

石狩湾新港で輸入している商品としましては、販売数量の多い韓国産ビール系飲料、イタリア産スパゲティ、タイ産ツナ缶、中国産はるさめ、韓国産キムチ、マレーシア産マンゴープリンなどの加工食品から、インドネシア産トイレットペーパー、中国産ティッシュなどの日用雑貨までがあります。石狩湾新港での輸入数量は、2008年の108TEUから年々増加し2013年度には400TEUを超えました。これは、北海道での販売力が上がってきたことが一番の要因です。

本港に期待することをお話いただけますか？

輸入港の選択ポイントは、釜山港からの海上運賃、最終デポでの国内配送費などのコスト削減と釜山ハブからの配船スケジュールの短縮です。将来的には冷凍品、チルド品の輸入を拡大するため、リーファーコンテナも北海道にコンテナ直送したいと考えております。

最後に

CGCグループは2015年度、「活かせ!地域の力」を活動スローガンに掲げております。全国の加盟店舗がローカルスーパーマーケットの力を発揮し、各地で「地方創生」の担い手となることを目指すものです。それぞれが行政、学校、生産者、そしてお客様と深く関わりを持つことが大切だと考えています。その一つに石狩湾新港とも新しい取り組みができれば幸いです。



王子エフテックス株式会社

江別工場で使用する木材チップの内、海外品の全量を石狩湾新港で輸入
石狩湾新港を利用することにより、物流コストを大きく削減

貴社の概要についてお聞かせください

弊社は、王子グループの特殊紙メーカーで、2004年に王子製紙株式会社の特殊紙事業本部とグループ会社であった富士製紙株式会社が統合し、弊社の前進となる王子特殊紙株式会社が発足しました。その後、今まで培われた特殊紙製造の経験や高い加工技術などを活かし、市場のニーズを捉えながら、人々の豊かな生活を目指していくため、2012年に王子エフテックスと社名を変更し、現在にまで至ります。

どのような特徴がありますか？

江別工場は、明治41年に当地で操業を開始しました。豊富な林産資源と石炭や水の調達への優位性が高いため、当地を選定しました。この歴史的な背景から、王子エフテックスの工場では唯一パルプの生産設備を保有しています。また、弊社の技術力を生かし、当工場は産業用から家庭用まで、幅広い分野で求められる特殊紙の生産に注力しています。

当工場で生産している主な製品は、シールの剥離紙用のベース原紙に用いられる「セパレート原紙」、木目調に印刷し家具・床などに使用される「建材用紙」、水に濡れにくい「はっ水紙」、ビート等の育苗に使用されるペーパーポット紙、マークシート等で使用されるOCR用紙の他、麻等を原料としたコーヒーフィルター用紙など、多岐に亘る製品を生産しています。

本港のご利用状況についてお伺いします

当工場で使用する紙の原料の木材チップの内、海外品の全量を石狩湾新港で輸入しており、年間に輸入する量は100万フレートトン超程になります。以前は苫小牧港にて陸揚げしてから、当工場にトラックで輸送していたのですが、石狩湾新港で取り扱うことにより、この輸送距離が大幅に短縮され、この結果、物流コストも大きく削減することが出来ました。

また、石狩湾新港に就航している外貿定期コンテナ航路を利用し、製品の一部を東南アジアや中国等に輸出しています。弊社の特徴ある製品の競争力を活かし、国外の販路拡大に向けても努力しているところです。

本港に期待することをお話いただけますか？

平成18年から石狩湾新港を利用しておりますが、これ以前は、日本海側の風浪の影響により、安定的に原料を調達出来るか不安でした。しかし、これまで大きなトラブルも無く、安定的に原料を輸出入来ています。今後も、安全で使いやすい港として、成長していくことを期待しておりますが、課題の一つとして内貿定期航路が就航していないということでしょうか。これが実現すると、我々の国内物流においてメリットが生まれますが、石狩湾新港の背後圏には、多くの企業が集積しているため、我々のみならず、地域経済においても、大きな経済効果を生み出せるものと考えています。

最後に

王子グループは、広く地球的視点に立って環境と調和した企業活動を展開し、真に豊かで持続可能な社会の実現に貢献するため一層の環境改善に取り組むとともに、森のリサイクル、紙のリサイクル、地球温暖化対策などを積極的に推進しています。当工場もより環境に優しく、地域の皆様に愛されるよう努力していくと共にこれからも『安全・安心・満足』していただける製品を安定的に皆様へお届けしたいと考えております。



王子エフテックス株式会社
江別工場 事務部 部長
森 崇 氏

TOPICS

外航商船6,000隻達成

今年1月22日に、平成6年に開港して以来、6千隻目となる外航商船の入港を達成しました。この度、節目の入港となったのは韓国・釜山港との定期コンテナ船「SUNNY LILY」号で、22日の午前11時に船内で歓迎式典を行い、石狩湾新港管理組合専任副管理者の田中から金船長へ記念の盾や花束を贈呈しました。



外航商船入港6,000隻目
「SUNNY LILY」号

エネルギー総合拠点として次のステージへ

昨年8月18日に、本港西地区において、北海道電力(株)による、LNG火力発電所1号機の建設に向けた工事が着手されました。同発電所は1号機から3号機で構成され、出力はいずれも約57万キロワットを予定しています。中央地区からパイプラインを通じて燃料の供給する計画で、LNG貯蔵タンクの建設が昨年、着工されました。

さらに、石狩LNG基地では、北海道ガス(株)により、2基目となるLNG貯蔵タンクの建設が進められています。

これらのほか、中央地区において8基のオイルタンクも増設され、本港は北海道のエネルギー総合供給拠点としての更なる飛躍が期待されています。



LNG船「エネルギーアドバンス」号
とLNG貯蔵タンク

食とエネルギーで世界と結ぶ石狩湾新港

石狩湾新港 長期構想策定

石狩湾新港は、平成27年に港湾計画改訂を予定しています。計画改訂に先立ち、20～30年後における本港の将来の姿を検討するため、港湾利用者や学識経験者などから成る長期構想検討委員会で議論を重ね、平成26年12月に港の発展方向を示した「石狩湾新港長期構想」を策定しました。

今回、長期構想から抜粋し、各プロジェクト（案）の概要の一部などを紹介させていただきます。

国際ユニットロードターミナル機能強化プロジェクト（案）

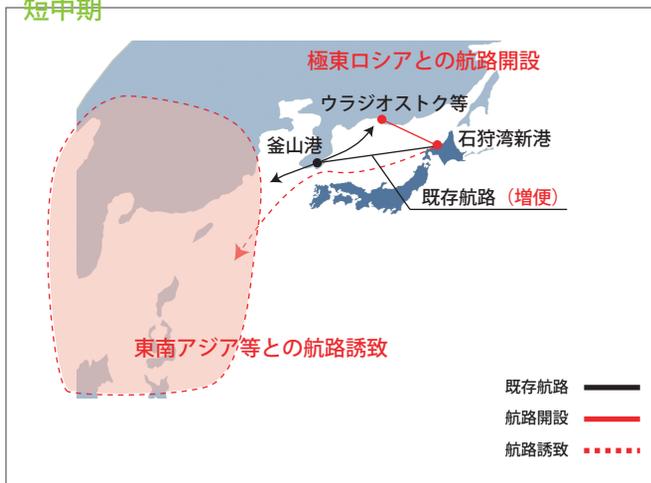
現状・課題・強み

現在、本港の外貿コンテナ航路は、韓国釜山港との間に週2便運航しております。近年、札幌圏に直結する本港の地理的優位性により、陸送コストの縮減が可能となることから、コンテナの取扱いが急激に増加しています。さらに、北海道内の冷凍冷蔵倉庫の約3分の1が集積する本港背後圏では、将来においても貨物の増加が見込まれ、この急増するコンテナ貨物の取扱いに対応するため、効率的な港湾利用の推進及び港湾施設の充実に努めていく必要があります。

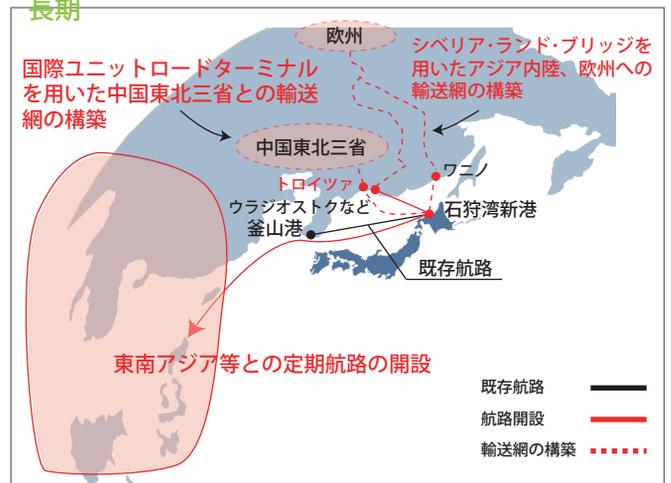
目指すべき姿

北海道と東アジア・極東ロシアなどの中継点である地理的優位性を活かし、既存航路の増便や新たな航路を開設することにより、対岸諸国などの著しい経済発展の活力を取り込み、北海道の経済発展に貢献することを目指します。

短中期



長期



国内物流ネットワーク機能強化プロジェクト（案）

現状・課題・強み

現在、石狩湾新港には本州との内航定期航路が就航していない状況の中、この航路の新規就航の実現に対する要請が多く寄せられております。内航定期航路の開設は、物流コストの削減や道内企業の競争力強化のほか、太平洋側に依存している北海道～本州間航路のリダンダンシー機能の確保も期待されることから、本港における内航定期航路の早期就航に向けた取組みが望まれています。

目指すべき姿

潜在能力を活かし、新港地域のみならず道内全体の物流コスト削減のため、海上・陸上輸送機能の強化を図り、地域経済の活性化を目指します。

短中期

内航定期航路の開設
札幌圏との効率的な道路ネットワークの強化

長期

内航定期航路の拡大
背後圏との陸上交通ネットワークの強化

石狩湾新港長期構想について詳しくは… [石狩湾新港長期構想](#) [検索](#)

